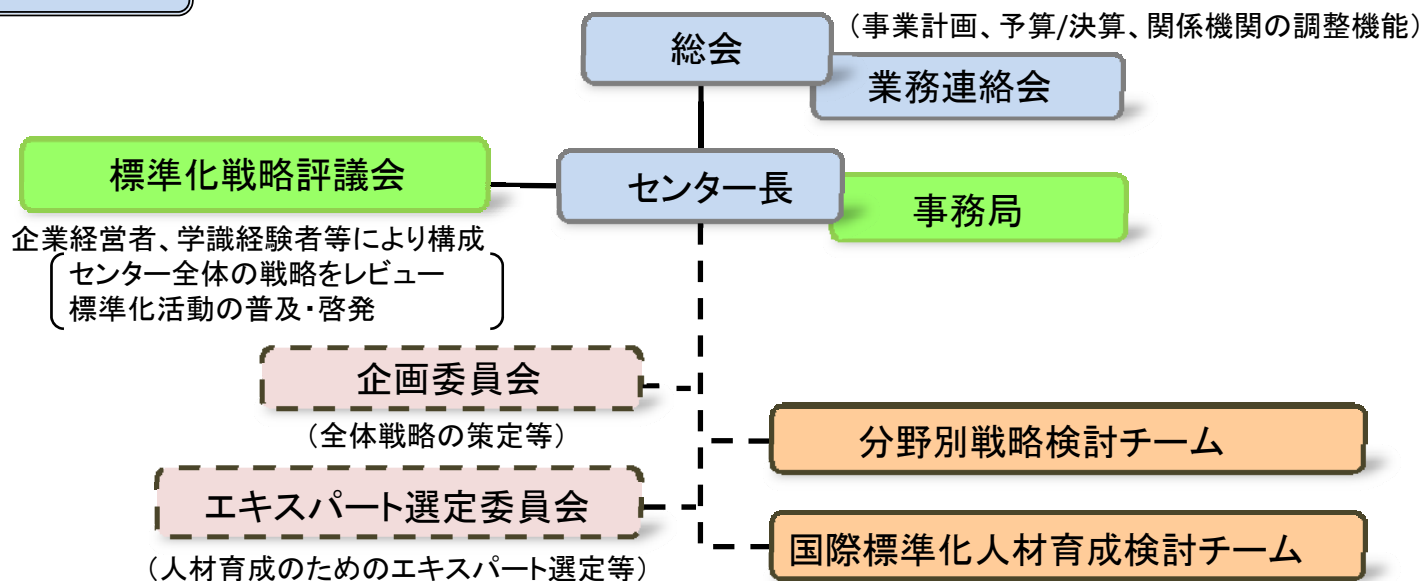


# (参考) ICT標準化・知財センター (iSIPc) の概要

## 概要

- ① 平成20年7月31日、TTC、ARIB、CIAJ等から構成される8団体で任意団体としてICT標準化・知財センターを設立
- ② センターの戦略検討チームに企業や大学が参画し、プロジェクトを結成
- ③ 総務省等は戦略検討に資する標準化動向及びパテント調査を行い、情報をセンターに提供するほか、ICT標準開発プロジェクトを支援

## 組織・体制



<2009～2012年の情報通信ネットワーク推進の方向性を定める>

- 開催時期            2008年10月21日(火)～同年10月30日(木)
- 開催場所            南アフリカ共和国(ヨハネスブルグ)
- 参加国・者          99ヶ国及び12の国際機関等(約770名)
- 主なテーマ
  - 審議体制(研究委員会;SG)の再編  
(議長: Mr. Bob HORTON(豪州))
  - 勧告案の承認
  - 今後4年間における研究課題の承認
  - 各SGの議長・副議長の任命 等

## (参考) 各SGの議長・副議長の任命

今後4年間の各SGにおける標準化活動をけん引する役職者として、我が国からは、ITUのSG議長としては初の総合電機メーカー出身となる内藤悠史氏(三菱電機)(アプリケーション開発担当SG議長)を含む以下の議長2名、副議長7名が立候補し全候補者が選出された。(最大数)

世界的な相互接続性確保に向けたプロトコル研究担当のSGにもメーカー(NEC)から副議長を輩出。

SG	活動内容	役職	氏名(所属)	
SG15	光伝送網及びアクセス網基盤	議長	前田 洋一(NTT)	再任
SG16	マルチメディア符号化、システム及びアプリケーション	議長	内藤 悠史(三菱電機)	新任
SG3	料金及び会計原則	副議長	津川 清一(KDDI)	再任
SG9	映像・音声放送及び統合型広帯域ケーブル網	副議長	宮地 悟史(KDDI)	新任
SG11	信号要求、プロトコル及び試験仕様	副議長	劔吉 薫(NEC)	新任
SG12	性能、サービス品質及びユーザー体感品質	副議長	高橋 玲(NTT)	新任
SG13	移動及びNGNを含む将来網	副議長	森田 直孝(NTT)	再任
SG17	セキュリティ	副議長	中尾 康二(KDDI)	新任
TSAG	電気通信標準化アドバイザリーグループ	副議長	岡村 治男(SCAT)	再任

(敬称略)

## ⑤産業に直結する、目的基礎研究を中心とした新たな認識形成

製品開発に直結する領域での研究投資だけでなく、国際的な競争力の源泉となる基礎領域に対する研究開発投資、および、人材育成を持続的に行う。

### 総務省の取組み

#### 〔将来の産業競争力強化の源泉となる基礎研究〕

- ・急速に進展するブロードバンド環境や映像等のコンテンツ利用の拡大に対応したネットワークの大容量化・高機能化を「光」技術研究開発として産学官を結集して進め、ペタビット級ネットワーク構成技術の確立、オール光ネットワーク構成技術の確立を目指すとともに、国際標準化も見据え戦略的に推進
- ・究極的な安全性が保証された量子暗号ネットワークの構築や、従来理論の通信容量限界を超える超大容量情報通信ネットワーク基盤技術の確立に向け、戦略的かつ総合的な研究開発を実施
- ・次世代ネットワークの次の世代を見据えた、日本発の新しい世代のネットワークアーキテクチャを創出するため、戦略的取組みを行う体制を構築し、研究開発を推進
- ・真にリアルで、人間に優しく、心を豊かにするコミュニケーションを可能にする3次元映像技術を、立体音響、五感情報伝達技術等の超臨場感コミュニケーション技術と一体的に研究開発を実施
- ・我が国の国民がロボットによる利益を安心安全に享受できるために、ヒューマンロボットインタラクションやロボット共生に関する基礎研究を実施

## ⑤産業に直結する、目的基礎研究を中心とした新たな認識形成

### 主な成果

- 超小型集積光スイッチモジュール(1/9の小型化、1/2~1/3の省電力化、100万倍の高速化)を世界で初めて開発(フォトニックネットワーク技術に関する研究開発)
- 標準光ファイバのみを用いた毎秒100ギガビットでの長距離伝送(1000km以上)に世界で初めて成功(フォトニックネットワーク技術に関する研究開発)
- 現在の光通信の最先端受信技術であるホモダイン受信機の感度限界をさらに上回る量子受信機の原理実証に成功(量子情報通信ネットワーク技術の研究開発)
- ヒューマンロボットインタラクションに関する基礎研究は、ネットワークロボット技術分野の国際会議HRIにおいて、平成17年度から毎年採択され、最優秀論文賞など多くの賞を受賞(ネットワークロボット技術の研究開発)

